

## 令和5年度第1回市原地域保健医療連携・地域医療構想調整会議 開催結果

- 1 会議名** 令和5年度第1回 市原地域保健医療連携・地域医療構想調整会議
- 2 日時** 令和5年7月18日(火) 午後6時00分から午後7時25分まで
- 3 会場** Web会議システム(Zoom)
- 4 出席者** 委員12名中12名出席  
小出(謙)委員(代理 市原市保健福祉部長)、中村(文)委員、小泉委員、小西委員、渡辺委員、岡本委員、中村(精)委員、井上委員、小出(浩)委員、石井委員、浅井委員、佐久間委員
- 5 配付資料** 資料1) 次期保健医療計画について  
資料2) 2025年に向けた医療機関毎の具体的対応方針について  
資料3) 公立病院経営強化プランについて  
資料4) 外来医療の医療提供体制の確保について  
資料5) 地域医療介護総合確保基金による各種事業(医療分)の実施状況について

## 6 概要

### (1) あいさつ(市原健康福祉センター長)

### (2) 議事

#### 議題1 次期保健医療計画について

健康福祉政策課より、資料1に基づき説明。

#### [意見・質疑応答]

##### ○委員

2点確認したい。資料5ページ上、保健医療圏については「現行の圏域を基本としつつ、引き続き検討を進めていきます。」と記載があるが、千葉県内では夷隅の方で様々な検討が行われたと思うが、現状でも検討は進められているのか。

##### ●健康福祉政策課

まず保健医療圏については、医療計画の策定にあたり厚生労働省より二次医療圏の見直しの考え方が示されている。具体的には、人口規模が20万人未満、二次医療圏内の流入患者割合が20%未満、かつ流出患者割合が20%以上となっている場合は設定の見直しについて検討することが必要であると示されている。本県には該当する医療圏はない。

このことを踏まえ、計画の改定にあたっては現行の圏域を基本とすることとしている。引き続き各圏域での調整会議の議論等を注視して、それを踏まえて検討していきたいと考えている。

## ○委員

2点目は、この会議が始まった当時から保健医療計画と地域医療構想調整会議を併せてやるのはおかしいと言いつけてきたが、最後のページ上、スケジュールでは計画改定に関してのこの会議は2回であるが、地域医療構想調整会議そのものは4回や5回やるのか。

## ●健康福祉政策課

この調整会議にて保健医療計画の改定について説明や意見をいただく場合は2回予定している。それ以外の調整会議の開催については医療整備課より説明する。

## ●医療整備課

本年度の調整会議自体は今回を含め3回の開催を予定している。資料にもあるとおり、1回目と秋に2回目、3回目を年明け（年度末になると思われる。）に行わせていただきたいと考えている。

昨年度末の調整会議で粗々の今年度のスケジュールを示し、その時には1月から2月ぐらいと示したが、紹介受診重点医療機関について、本年度報告いただいたものを踏まえての取りまとめ作業を年明けに行わなければならないが、国からのデータ提供が1月末となる見込みであるため3月ごろと考えている。いずれにしても3回目を年度末ぐらいに行わせていただきたいと考えている。

繰り返しになるが、本年度は3回の開催を我々としては考えている。

## 議題2 2025年に向けた医療機関毎の具体的対応方針について

医療整備課より、資料2、資料3に基づき説明。

## ○資料3 公立病院経営強化プランについて 千葉県循環器病センターより補足説明

現時点では、この場での報告事項はないが、県病院局において経営改革プランを作成しているところであるため、そちらについて次回以降の地域医療構想調整会議の中で議論をお願いしたいと思っている。

## 〔意見・質疑応答〕

## ○委員

本日協議いただきたい内容が2025年以降において担う役割や病床機能が地域医療構想と整合的であるかどうかというところがあったかと思うが、各病院から出たものを見て特に異議がなければ整合的であるということになってしまうのか。これは本日協議いただきたい内容にあったが、それは3回の会議の中で考えるということか。あまりまだそのディスカッションがされていないようであるがそのあたりはどうか。

## ●医療整備課

本日は市原整形外科も含め、先ほど共有させていただいた資料にて、市原医療圏の中の病院、有床診療所の皆様が策定している具体的対応方針を改めて示させていただいている。

この中で、これだけ単純に積み上げた場合に、回復期が現状、必要病床数と比べると不足が見込まれている状況があったりする中で、果たしてこの皆様の2025年に向けた具体的対応方針で、2年後の医療需要を迎えるにあたって大丈夫なのか、あるいはガンや脳卒中などの医療機能で不足が見込まれるようなことはないのかといったことを是非協議いただき、仮に何か不足が見込まれる、心配だということであれば、ではどうやって確保していくのか、という次の話に移っていきたいと思っている。

毎回話させていただいているため、今回1回言わなかったら未来永劫というわけではないため、今日はまずはこの内容で意見を頂きたいと思っているが、この先も何か状況の変化等があれば、随時この調整会議で取り上げていきたいと思っている。

## ○委員

最初に比べて急性期は、急性期の中で結局回復的な機能を持っているところもあり、現状では2025年に向けて患者の層等も変わっていない中で、皆様回復期は不足していると思っていると思うが、激しく困っている感じではないと思っている。平均在院数もどんどん短くなっているため、本当にこれだけ回復期がいるのかどうか、いつも県に言っているが、それも含めて検討いただきたい。

確かに始まった頃には、回復期は少ないとディスカッションしていたが、その後市原圏内で少なかった中で、五井病院、白金、さらしなを作ったりして、ある程度増えてきているのは確かであるため、さらに必要かどうかというところは医師会としても見守っているところである。

## 議題3 外来医療の医療提供体制の確保について

医療整備課より、資料4に基づき説明。

### 〔紹介受診重点医療機関の公表にあたる協議結果〕

紹介受診重点医療機関については、基準を満たし、かつ意向を有する千葉労災病院について、反対意見はなかった。また、基準を満たさないが、意向を有する帝京大学ちば総合医療センターについては、理由について説明の上、協議を行ったところ、反対の意見はなかった。以上のことから、意向のある2病院について紹介受診重点医療機関とすることで協議が整った。

一方、基準を満たすが、意向を有しない千葉県循環器病センターについては、理由について説明の上、協議を行ったところ、反対の意見はなかったため、紹介受診重点医療機関にならないことで協議が整った。

### <②基準を満たすが、意向のない医療機関（千葉県循環器病センター）>

○千葉県循環器病センター 病院長より理由説明

当センターの場合は、千葉県の保健医療計画でも県立病院の改革プランでもそうであるが、専門医療だけでなく、特に市原、長生、夷隅、山武地区の地域医療を担っていくことが当センターの役割だと判断しているため、そういった理由で紹介受診重点医療機関になることはなかなか難しいと判断し報告させていただいた。

### <③基準は満たさないが、意向がある医療機関（帝京大学ちば総合医療センター）>

#### ○帝京大学ちば総合医療センター 病院長より理由説明

既に話のあったとおり当センターは基準を満たしていないが、御存知のとおり当院も地域医療支援病院に指定されているところであるため、基本的には紹介受診重点医療機関として貢献していくべきだと考えており、そういうところで認めていただくよう努力していきたいと考えている。

実際にデータにあるとおり、紹介率と逆紹介率は結構高く、十分満たしている数字ではあるが、一方で先ほど議論のあったとおり地域の医療を担う立場も混ざりながらやっている状態で、少し紹介率等に比べて医療資源を重点的に活用する外来の割合が少なくなっている。

今後基準を満たす蓋然性やスケジュールについてはざっくりと記載しているが、定量的にきちんと解析したわけではないが、ある程度高い紹介率、逆紹介率を踏まえて、これまでコロナの影響もあったり、化学療法の算定の仕方が変わったこともあったが、もう少し生活習慣病も含めた紹介が必要な患者を積極的に受けて、指導管理料をとっていくといった方針で近々未来的にこの基準を満たしていけるのではないかと考えている。

#### [意見・質疑応答]

##### ●市原健康福祉センター長より質問

スケジュール的なことで近々という言葉があったが、スケジュール感としてはどれくらいのスパンを考えているか。

#### ○帝京大学ちば総合医療センター 病院長より回答

解析が十分できていないが、紹介率のわりに重点活用できている外来というのが少なく、そこには様々なトリック（きちんと管理料がとれていない等）が混ざっているため、そういったことをきちんと見返した上で、対策を立てて1年ぐらいの内には基準に迫る数字になれるのではないかと考えている。

##### ●市原健康福祉センター長より医療整備課へ質問

1年ぐらいの内にはと話があったが、医療整備課としては特段それでよいか。

##### ●医療整備課より回答

スケジュールについて明確な基準がないため、地域の皆様との協議の中で許容できる範囲ということであれば私共としては異存等ない。

## 〔議事に関する総括〕

### □地域医療構想アドバイザーよりコメント

まず初めに次期保健医療計画の策定についての話があったが、こちらの方は他の計画との整合性や指標と指標の間の関連といったものが重視されており、それでロジックモデルを組みなさいという話になっている。これができたらOKというものではなく、システム全体として質が上がっていることが要求されているところがあるだろうと思われる。その中、市原市の場合は海の方の部分と、山の方の部分があったりして、人口の重心はどこにあるのかなど色々考えたりすると色々難しい話がでてくるのではないかとと思われる。そういった観点からも二次医療圏の考え方をどうしたらいいのかといった質問が上がったのではないかと考えた。このあたりのことについては、結局計画を作るにあたって各地域がどうなっているか、かなり細かく検討しなければいけないことと思うため地域の先生方の話を聞かせていただきながらしっかり作っていくということが大切だと思われる。そういった観点からもまずは意見を入れていただくということが重要なため願います。

次に具体的対応方針についてであるが、2025年以降についての変更も協議の対象になるということになっている。こちらの方は、今後色々計画を立てたり、整備したりというようなことが進められると思うが、構想の段階から、あるいは在り方の検討の段階からしっかりと地域医療構想調整会議で検討いただくのが手続き的には正しいと考えている。

また、公立病院の経営強化プランであるが、他の地域で拝見していたり、これまでの経緯を見させていただくと再編とかネットワーク化とかいうところが結局上手く書き込めていない、あるいは計画として具体性のあるものになっていないと思われる。このあたりが鍵になるのではないかと考えた。併せて、外来のところでも話があったが、循環器病センターの場合は専門医療だけでなく、地域医療も担っているという非常に複雑な立場も持っているというところをしっかりと書いていただかないといけないと思っている。紹介受診重点医療機関のところの説明であったが、山武、長生、夷隅等、広域に対応しているということも記載されているということは、逆にそういった広域の部分に対する調整も進めなければいけないということで、このあたりは病院局でしっかりとしたものを作っていたかなければならないことになろうかと思う。

紹介受診重点医療機関の議論であるが、やはり一番重要であったところは循環器病センターの方が専門医療だけでなく、地域医療も担っているというところで、地域医療も担っているということは、フリーアクセスを維持するということになり、フリーアクセスをメインとする医療機関と機能が重複してしまう可能性があるだろうということになると思う。しかし、地域の状況を見ると必ずしもそういう懸念はないということもあるし、地域の方の理解もいただいているようであるため、これについては適切な判断なのではないかと思う。一方、帝京大学であるが、紹介率、逆紹介率を見る限り、基準を満たしていないというのは、これはどういうことなのかと思う。先生方が話されていたようにしっかりと数字の方を見直したり、統計を取りなおしたりすると違った結果になる気がするため、今年度、さっそく指定させていただくとともに、次年度にむけてそのあたりの数字を調整すると整合性がとれるのではないかと思う。

### (3) 報告事項

#### 報告事項1 地域医療介護総合確保基金による各種事業(医療分)の実施状況について

健康福祉政策課より、資料5に基づき説明。

#### [意見・質疑応答]

意見・質問なし。

#### 報告事項2 その他(帝京大学ちば総合医療センターの移転に関する記事について)

●市原健康福祉センター長より帝京大学ちば総合医療センターに説明依頼。

○帝京大学ちば総合医療センター 病院長より説明。

マスコミ等々の記事で御存知のことかと思うが、当センターが新病院建て替えあるいは移転の計画があるということで、本来であれば皆様に早く説明できればよかったが、現在の状況としては、しばらくの間議論がされていなかなか決定がなされないという状況であったため、話すことができる状態ではなかったが、大学の上層部の経営判断として新病院を移転して作ることをほぼ決定したということで6月の末に小出市原市長に申出(お知らせ)させていただき、その後、市議会でも議論があったりして、そのことがマスコミで報道されたということである。

そういったことで、皆様に公的な会議で話すのが初めてであるが、報告が遅くなったことをまずお詫び申し上げます。

状況であるが、当センターは御存知のとおり、築37年ということでもかなり建物自体も老朽化しており、インフラもボロボロの状態である。さすがにこのまま病院機能を維持することはできないという状況である。そのため、当然建て替えあるいは移転等々の計画が必要であるという状況であるが、今回の計画の一つの背景として、恥ずかしながら当院は開院以来基本的には累積赤字があり、経営的には少し抜本的な改革が必要だろう常日頃から考えられてきていたという背景がある。その中で当センターとしては、姉崎地区で病院をやらせていただいたということで、その経緯の中で現地建て替えというのをまず検討した。当然その現地建て替えが上手くできれば、色々な意味で影響が少ないかと思うが、もし、建て替える場合の一つ大きな問題は、駐車場のスペースというのがそれほど余力のあるものではなく、そこを使って建て替えるということになるが、機能を維持しながら建て替えるということになると駐車場の場所の制限、全体の機能の制限といったことがかなり長期にわたることが避けられないということが分かった。そういうことで、検討した結果、皆様に多大なご迷惑をかけるということと、予算的にも非常に圧迫するということもあるため、現地建て替えはなかなか難しいのではないかという判断があった。

詳しい話は分からないが、市外に移転や県外に移転の話もあったようだが、やはりなんといっても市原医療圏の中で当センターを存続する案ということで、検討された結果、帝京大学は帝京平成大学をちはら台に持っており、そのグラウンドのスペースが千葉キャンパスに移転するというので、そのスペースが空くということで、ここがもし病院建設が可能なところということであれば、そこ

に移転することによって市原医療圏の方々に対する影響を最小限に抑えて今後何とか上手くやっけていけるのではないかとということで、そういった案が検討されたわけである。

結果的にそこにそういう計画を進めることによって、今なかなか現地では難しい医療従事者の安定確保、あるいは学校そのものがそこにあるため、学校としても病院併設の学校ということで医療スタッフの卵（学生）にもよいだろうということでGOが出たということである。

今現在の状況としてはその経営判断がなされたということであるが、正式な決定、最高決定機関である帝京大学の理事会では、まだ最終承認というものが行われていないため、ほぼ決定ということではあるが、最終的な正式な決定というのはまだであるという状況である。

もう一つその非常に大きな問題は、もしその移転する場合にはその跡地を、これは市から誘致の際にいただいて使わせていただいた経緯もあるため、何とかそこに何らかの医療機関を存続できればいいが、なかなかその経営等々の問題で、どういものを残せるのかということに関しては今まだ議論しているところで、具体的な案はないというのが実情である。

今後、その跡地利用も含めて当センターと皆様方の関係も含めて何とか上手い方向で行けるように調整していくのが私共の役割だと認識しているため、何とぞよろしくお願いする次第である。

#### 【意見・質疑応答】

##### ○市原市

今の話については、市原市より要望書を出させていただいている。経過については、6月中旬に病院長様が市長の所に来ていただき、話を聞いた際に、口頭で現地で何とかならないだろうかという話と、あと大学の理事長様より正式な文書を6月末にいただいた、それに対して、要望の文書をお返ししたという状況である。

##### ○委員

確かに病院の運営、経営はもちろん重要であり、自分の病院が大事なのももちろんであると思うが、この時代、これだけ今後医療が大きく転換していくという中でやはり地域の医療のことを考慮しないでの運営というのは少し考えにくいのではないかとということで、私としては市原市からの話にもあったが、まさにそのとおりではないかと思っている。非常に地域の医療に大きな混乱が来るのではないかと危惧している。

##### ●市原健康福祉センター長

この件に関しては、帝京大学ちば総合医療センター病院長からも何か上手い方法で方向性を見つけたいかという話もあったが、大勢の方が関心を持っていることだと思うため、引き続きこの件に関して、これから色々な場でコミュニケーションを深めていただければと思っている。なかなか難しい問題であると思うため、何かこの場で方向性等といったものではないかと考えている。この場ではこれからの議論を深めていただきたい、コミュニケーションをとっていただきたいという要望ということで、今日は締めさせていただきたいと思う。

## 〔総括〕

### □地域医療構想アドバイザーよりコメント

最後に、帝京大学ちば総合医療センターの移転の話がでて、この話はとても重要な話であると思われる。計画ができてすぐに建つといった性質のものではなく、非常に色々な投資などを考えなければいけない、それをしっかりと経営的に回収しなければいけない、また、周りの医療機関にも影響がある、さらには、広域的に、市原市からみて南の方から非常に大きな期待のかかっていた医療機関というところがあるため、こういうあたりの話が議論しなければいけないといったことがあったうえで、これから先しっかりと議論し続けていくということが重要だろうと思う。

今までどちらかという、県であったり、行政側から出した課題に対してこの会議では取り扱うということが多かったとは思いますが、そうではなく、いよいよ各医療機関が色々な意思決定をするにあたって地域との協議というものをしっかりやっていかなければいけないということになり、この地域との協議ということを実施した上で大きな病院の再編、移転、あるいは再配置といったものが行われているケースが県内でもあまりない。そういった観点からもとても重要な議論であり、今後の前例になるような、そういった試みであろうかと思う。

乱暴なやり方はあまりよろしくないと思うが、地域の中で信頼を勝ち得てきた医療機関のことであるため、決してそんなことはないかと思っている。そういったことを踏まえて、こういう風に議論を続けていくんだという手順、この手順が確立していない中で、その手順を今回施行錯誤ということになるかと思うが、是非形にしていただければと思う。

これはアドバイザーとしての要望である。

(午後7時25分 終了)